

作業療法学科卒業生アンケート  
「介護福祉士に期待すること」

2016年6月

期生	期待すること
1	利用者の身近にいる存在(24時間、365日)のため、その利用者の状況を1番知っている、把握できるポジションだと思います。その得ている情報をどう連携に活かすのか、支持に活かすのか、発信力に期待しています。
1	記録や評価をしっかりと行い、アセスメントして欲しい。そこをせずに意見を言っても文句にしか思ってもらえないことも多いのではないのでしょうか、と見ていて思うことがある。
1	自己判断力、責任力・・・向上心etc
1	利用者さんにとって一番身近な存在がケアスタッフだと思います。今の職場ではケアスタッフに会いに(癒されに!?)来られる方も少なくありません。それと同時に何気ない会話の中で利用者さんのリハビリへの意識も高めてくれるためリハビリスタッフとしていつも助けてもらっています。
2	待つ介護をできると良いですね。
2	介護の専門職として、実際のADL、介護状況をカンファレンス等で情報として発信していただく事。それらの情報を基に、OTとして今後のプログラムを再検討し、できる限り実際のADLとプログラムの乖離を減らしていきたい。
3	認知症ケアに期待。
4	リハビリ以外の時間の対象者の活動量管理。対象者に合った対応。
4	患者様に適した介助量。ケア内容の充実、拡大。
4	食事、排泄、入浴ケアなど大変な業務が多いですが、患者様に苦痛が無いように接しているのを見て、いつもすごいなーと思っています。自分の体や長く働ける環境を大切にして続けてください。急性期のリハは、患者様一人あたりに関わるのは1日に20分～40分、他のリハは病棟で実施しているのです。お願いします。
4	介護福祉士の資格の有無による「介護」と「それを行うためのシステムづくり」の違い、差を、より広報していただく事を期待します。
4	腰痛予防し、長期勤務できる。
4	現場はとて大変な事も多いと思いますが、虐待などがないような世の中になって欲しいなあと思います。
4	長く勤めて欲しい、と思っています。
5	OTとして:クライアントに一番近い存在として、セラピストに対してもいろいろ意見を伝えてほしい。介護を受ける側として:ヘルパー(初任者研修修了者)と介護福祉士の区別をはっきりと仕事で見せるべき。介護のプロであることを社会的に認知してもらわないと待遇はいつまでも変わらないと思います。
5	その人に合った介護をしてほしい。また、その人がどんな人なのか生活場面に一番関わっている介護福祉士だからこそ知った「その人らしさ」を教えてほしいです。
6	お互い笑顔を忘れずに☆
7	クライアントの能力を最大限に引き出せる様な支援、楽しく生活を送れる様な支援。
8	その人の生活歴や日々の何気ない会話から聞き取れる事を他職種に共有し、更には愚痴も聞いて寄り添って欲しい。辛さ、苦しさを家族にも言えない、リハビリスタッフにも言えない事もあるので、CWがとても大切な存在だと
9	連携、チーム医療への参加。
9	疾患、病態の理解と心身機能に合わせた介護サービスの提供。
11	介護福祉士さんの患者さん・利用者さんへの関わりにはたいへん助かっています。廃用症候群の予防、可能な範囲での離床、チームアプローチに期待しています。
教員	OT出勤時間帯以外の情報提供(夜は2回おしっこに行きますなど)。OT勤務中一緒に行動確認(ご飯はこのセッティングで食べましょうなど)。
教員	生活介護事業所で介護福祉士さんと一緒に仕事をしています。一緒に働いてみて、ハードワークにびっくり、「ケア」の大変さにびっくりです。OTとしては+αの部分の充実を考えてしまいがちですが、障害の重い方は、日々のケアを気持ちよく受けること、不快にならないことがQOLの向上(?)でもあるな、と。介護技術を極めて、それを他職種にアピールして下さい!